

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表
します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満
たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧
告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 北海道千歳市立末広小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

住所 〒066-0034

北海道千歳市富丘2丁目6番2号

E-mail : es-suehiro.a@ed.city.chitose.hokkaido.jp

Website : <http://www.city.chitose.hokkaido.jp/ed/suehiro/>

児童生徒数：男子 272名 女子 232名 合計 504名

児童・生徒の年齢 7歳～12歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

～アイヌ文化の体験的学習～

1 実践テーマの趣旨

本校のアイヌ文化学習は、生活科・総合的な学習に位置づけ実践し始めてから、今年で18年目を迎える。昨年度まで、北海道ふるさと教育推進事業の実践校の指定を受けてきた。

千歳市（アイヌ語地名でシ・コツ「大きな窪地」）は、交通の不便であった蝦夷地にあつて、西の太平洋側と東の日本海側とを結ぶ要所であった。また、千歳川やその周辺の多くの支流には、サケやシカなどの豊富な資源があり、先住民族のアイヌの人々もその流域に集落を構えていた。現在でも、アイヌ民族の方々が多く住まれ、文化活動が盛んに行われている。このような地域が、本校のアイヌ文化学習の土壌になっている。

本校は、アイヌ文化学習で人権や差別を声高に叫んでいるわけではなく、子どもたちが学んでいるのは、アイヌ民族の文化や歴史だけでもない。アイヌ文化学習には、今日的かつ重要な教育的価値（教育課題）が内在している。命の大切さ、自然との共生、歴史学習への興味関心、あるいは食の教育、環境教育、人権教育に至るまで広汎な教育課題を有している。即ち、アイヌ文化学習とは「生き方」を学ぶことのできる学習であり、実に優れた地域教材と言える。

2 実践の内容

1, 2年生の生活科で年間8時間程度、3年生以上は総合的な学習において年間20時間程度、体験活動を中心に実施し、発達段階を踏まえ系統的に学習していく。

<p>○低学年 <口承文芸・民具></p> <ul style="list-style-type: none">・ チセたんけん(1年)・ 歌「ウポポ」踊り「ホリッパ」(1, 2年)・ アイヌの絵本の読み聞かせ(1年) アイヌの民話の語り(2年)・ 子どもの遊び「チレクテトプ」(1年) 子どもの遊び「トプ、ク・アイ、カリプ」(2年) 遊び道具作り(2年) <hr/> <p>○中学年 <アイヌ語・衣食住・狩猟・栽培・民具></p> <ul style="list-style-type: none">・ アイヌ語の地名とアイヌの暮らし(3年)・ サケのマレク漁とサケの解体(3年) サケ料理「チェプオハウ」(3年)・ 保存食について(4年)・ シプシケプ(イナキビ)・アハ(ヤブマメ)の種蒔き、栽培、収穫、シト(イナキビ団子)作り(4年)・ ・ 2年間の学習の発表「千歳市サイエンス会議」(4年) <hr/> <p>○高学年 <衣食住・民具・人権></p> <ul style="list-style-type: none">・ シナノキ皮剥き、皮干し、皮の糸撚り、撚った紐を使った飾り作り(5年)・ イナウ(祭具)削り(5年)・ ムックリ作りと演奏(6年) 文様刺しゅう(6年)・ アイヌ民族の歴史(6年)・ ・ 修学旅行での調査活動 アイヌ文化学習まとめ(6年)	<pre>graph TD; A[口承文芸] --> B[遊び]; B --> C[自然(環境) 命 食]; C --> D[暮らし]; D --> E[人権];</pre>
---	---

本校では、文献資料等を用いて調べ進めるだけではなく、子どもたちが実際に千歳のアイヌの人々の生活に根差していた「本物」にふれ体験し、その価値に気づかせることを重視している。

具体的な体験があるからこそ、現在の生活と比較し、五感を通して人々の工夫や苦勞がわかり、さらに自然や命を大切にする精神文化の素晴らしさに気づくことができる。そして、多様な価値観に共感するとともに、自分たちの生活にも生かそうとする「生きる力」を育ていける。

3 実践の概要【例】3年生『サケのマレク漁・解体、アイヌ語地名』

⑦アイヌ語カルタ 地名やこれまでに習った言葉、さらに調べた言葉でかるたを作る。



⑤アイヌ語地名 千歳や北海道の地名、店などの名前にたくさんアイヌ語があることを知り、言葉に興味を



④アイヌ文化財団アドバイザーとのサケ料理チエブオハウ作り ひれや頭、皮など、全てを残さず平らげる。





千歳川をとりまく環境と協力して下がる地域人材

⑥施設見学 サケや受精卵に直に触れ、川、海で過ごすサケの生態をさらに詳しく調べる。



③学芸員による解体 部位の役割の説明。皮、身、内臓、骨、全てが大事な役目、大事な食料や材料。全てを持ち帰る。尊い命をいただいていることを心に深く刻ぶ。



②アイヌ文化財団の派遣アドバイザーによるサケ漁 泳いでいるサケをマレク(鉤鉾)で突き、イサパキクニ(打頭棒)で絞める。衝撃的!



①施設見学 サケを中心に千歳川の自然環境を調べる。水中観察室では、川の中の生き物たちを直接観察したり、ボランティアの方から説明を聞いてたいオスレができる。



【児童の感想】

アイヌの人々は、サケをすごく大切に生きています。わたしは、サケをのこし、「やだ、ぜったい食べたくない」と、いつもわがままを言っていました。ですが、わたしたちの目の前で「マレク」を使ったサケのとり方をしてもらったと、サケのいたさ、悲しさがとてもよくわかりました。こわくなり、今までわたしはサケに対して、「どんな事をしていたんだろう。」と思いました。サケは、わたしたちのために命を落としてくれています。なので、すききらいせず、大事に食べたいと思います。ほかの魚も同じです。「みんな生きて、みんな友だち」こんな言葉をわすれずに、感しゃして食べてあげてください。

サケを目の前で突き、叩き、しめる様子は子どもたちには衝撃的であり、一見残酷だ。しかし、食物となってくれたサケやそのサケを育み運んでくれた川に感謝するカムイノミ(儀式)を見るうちに、サケが自分たちの学習のために命を落としてくれたことにも気づいていく。「サケ(食べ物)を大切にしよう」「サケに感謝しよう」「きれいな川を守ろう」という思いに変

